

Ⅱ 委員会活動から Ⅱ

活動推進委員会(北海道技術士センター)

【活動推進委員会主催見学会報告（日帰り） 7 月 27 日】

【活動推進委員会主催見学会報告（一泊） 9 月 15 日～16 日】

平成 18 年度の北海道技術士センター活動推進委員会主催の見学会を以下の要領で開催しました。

本年度は、日帰り見学会（7 月 27 日）と、一泊見学会（9 月 15 日～16 日）を開催致しました。見学順に概要をお伝えします。

1. 日帰り見学会

○日時：平成 18 年 7 月 27 日 8：40～19：30

○見学先

- ・泊発電所（泊村）
- ・木田金次郎美術館（岩内町）
- ・岩内町地場産業サポートセンター（岩内町）
- ・札幌市山口斎場（札幌市手稲区）

○参加人数：58 名

○懇親会：札幌ビール園

① 泊発電所（泊村）

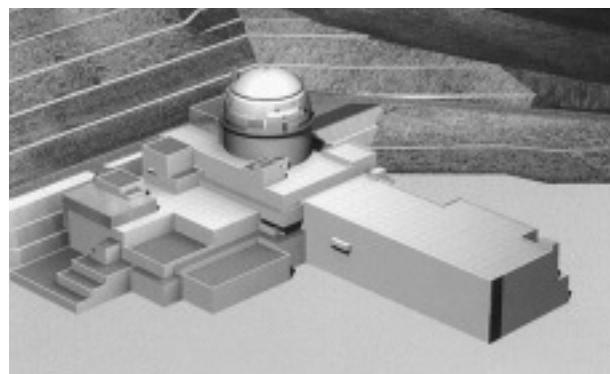
泊発電所は平成元年 6 月に 1 号機が、平成 3 年 4 月に 2 号機が運転開始となり、現在は北海道の電気の約 3 割をまかなう重要な電源となっています。また、北海道電力では今後の電力の長期的な安定供給を確保し、地球環境問題へ適切に対応していくために、現在 3 号機の建設をしており平成 21 年 12 月の営業運転をめざして建設しております。

発電所内見学にあたっては、事前に名簿を提出するなどテロ対策のため厳重な警備体制となっており、許可証のチェックおよび見学バスのチェックを受けた後、3 号機の建設状況を見学しました。敷地内では、テロ対策および機密保持のため写真撮影が禁止であったため、3 号機のイメージ図を掲載しました。

3 号機は 1・2 号機の建設と運転で得た経験を十分に活かすとともに、最新の設備を取り入れ高い安

全性と信頼性を持たせています。その特徴として、発電効率を高めるための「高効率タービン」や、中央制御室に開発中の「新型中央制御盤」を採用する予定です。さらに、周辺環境に調和させるため「緑色」を建屋の一部に取り入れた色彩になる予定です。

現地では展望台より 3 号機建設の現場を見学し、その説明をしていただきました。とまりん館では泊発電所のしくみ、地域の歴史や自然について説明・案内していただきました。



3 号機 イメージ図



全景写真についての説明

② 木田金次郎美術館（岩内町）

生涯、岩内の自然を描き続けた木田金次郎の作品や人生を、多くの人に知ってもらいたいという思いが集まり、平成6年11月3日に木田金次郎美術館は開館しました。

作品等の説明をしていただいた後、ゆっくりと木田芸術の鑑賞を楽しみました。

③ 岩内町地場産業サポートセンター（岩内町）

岩内町地場産業サポートセンターは「深層水の分水」から商品開発の「技術支援」や「PR支援」まで利用者の幅広い支援を行っています。

参加者は記念撮影をした後、海洋深層水の試飲をしました。



岩内町地場産業サポートセンター前で記念撮影

④ 札幌市山口斎場（札幌市手稲区）

札幌市山口斎場は、「民間資金等の活動による公共施設等の整備等の促進に関する法律」（PFI法）に基づき札幌市が設置する火葬場として、全国で初めてPFI手法によって建設されました。

施設の設計・建設のみならず斎場の運営についても一括して民間事業者に委ねる点がPFI事業としての特色となっています。

施設は、心の和む空間となるようにデザインされ、会葬者の心情に配慮した動線計画となっています。会葬者だけでなく、スタッフ動線もサービスしやすいように計画されています。また、最新技術の導入によるダイオキシン類の排出抑制が考慮された火葬炉が採用され、ユニバーサルデザインの積極的な採用のほか、雪冷房システムや光ダクトによる自然

採光・自然換気などの自然エネルギーの有効活用、外断熱工法の導入による省エネルギー対策など、随所に創意工夫が盛り込まれたつくりとなっていました。

斎場内の説明にあたっては、札幌市保健福祉局健康衛生部生活環境課の大江から詳細な説明をいただきました。



自然採光を取り入れた廊下を見学

当日は雲ひとつない程の晴天と暖かい気温にも恵まれ、大変有意義な見学会となりました。また、見学会終了後の懇親会でのビールは格別でした。

今回も盛況のうちに見学会を終えることができました。ご参加の皆様、並びに関係者の皆様、ご協力有難うございました。

2. 一泊見学会

○日時：平成18年9月15日～16日

○見学先

- ・川のふるさと交流館 さらら（旭川市）
- ・永山新川見学（旭川市）
- ・忠別ダム見学（東川町）
- ・シーニックバイウェイ（大雪・富良野ルート）
- ・滝里ダム資料館（芦別市）

○参加人数：29名

○懇親会：「天人峡グランドホテル」

① 川のふるさと交流館 ささら

「川のふるさと交流館 ささら(正式名称：永山新川管理センター)」は永山新川のほとりにあり、永山新川の維持管理、災害時の防災基地、地域交流の場とすることを目的に、平成16年4月21日に北海道開発局旭川開発建設部により設立されています。

館内施設は展示室、多目的研修室等が整備されており、展示室は『川と地域の安全と交流』をテーマに、治水事業をはじめ、川と地域の歴史・自然を様々な角度から紹介し、河川事業への理解と永山地区の紹介を目的とした施設です。開館以来多くの来館者が訪れ、地域住民の交流・イベントの場、小中学校における総合学習の場として広く利用されています。



永山新川の役割についての説明



旭川河川事務所の小松課長による
「永山新川」の建設までの経緯説明

② 永山新川見学

永山新川は牛朱別川の桜橋地点上流部より、石狩川永山橋上流地点に至る全長約5.7km、川幅約200mの牛朱別川の氾濫を防ぐのを目的に、人工的に作られた水路です。

牛朱別川は、上流に比べ下流の旭川中心部で川幅が狭く、昭和45年の洪水をはじめ、多くの洪水で危険な状況になりました。そこで、治水効果や経済性・社会的影響などを総合的に検討した結果、洪水が旭川中心部へ流れ込む前に、川幅の広い石狩川へ分流させる水路として「永山新川(牛朱別川分水路)」が平成15年度に完成しました。永山新川の完成によって、下流の旭川中心部では洪水時の水量が約半分に減り、洪水に対する安全性が飛躍的に向上したそうです。



永山新川を「川のふるさと交流館 ささら」から望む

旭川市の中心部を洪水から守るため、新たに誕生した永山新川は、今や旭川を代表する渡り鳥の飛来地として、すっかり市民に定着し、毎年市民の目を楽しませているそうです。川岸は全体に緩やかな傾斜となっており、水辺まで近づきやすく、川を身近に感じることができます。今後、桜をはじめとする樹木の生長により、自然環境が益々豊かになると思われますが、子供達や市民の憩いの場と同時に、学習の場としても将来が楽しみです。



自然豊かな「永山新川」を見学

③ 忠別ダム見学

忠別ダムは、堤高 86.0 m、堤頂長 290 m の「重力式コンクリートダム」と、堤高 78.5 m、堤頂長 595 m の中央コア型「フィルダム」の二つを合わせた「複合ダム」です。砂礫が分布する右岸がフィルダムで、左岸がコンクリートダムです。忠別ダムは上川郡美瑛町に位置し、北海道開発局旭川開発建設部が昭和 52 年着手し、平成 18 年に竣工しており、現在試験湛水を行っています。

試験湛水の目的は、ダムは大規模な土木構造物であり、その安全性が社会に及ぼす影響が極めて大きい施設ですので、ダムの通常の管理に移行する前にその安全性を確認するために行います。試験湛水は、計画的に貯水位を上昇、低下させ、ダム本体、放流施設、貯水池周辺地山の安全性とそれらの機能について検証を行います。



忠別ダムの放流状況

忠別ダムは、多目的ダムで洪水調節、水道水・かんがい用水の補給、水力発電などを行います。また、流水の正常な機能の維持（川の水が少ないときにダムに貯めている水を流す）等、自然環境の保護に努めます。

建設にあたっては、「自然や生き物にやさしいダムづくり」を目指して建設されました。

忠別ダム建設事業所の加賀所長さんにより、ダム堤体内と監理所内に設置されてる監視施設等の詳細な説明を聞きながら、ダム建設のご苦労を感じることができました。



ダム堤体内の加賀所長による説明

④ シーニックバイウェイ（大雪・富良野ルート）

シーニックバイウェイ北海道に指定されている大雪山・十勝岳連峰の裾野と山懐を通る「大雪・富良野ルート」を経由して、札幌に向かいました。大雪・富良野ルートはパッチワークのように美しい丘陵田園やラベンダーなどの花々に彩られ、映画やドラマ、



帰路途中の深山峠で記念撮影

CM の舞台にもなっているルートです。

シーニックバイウェイ北海道は、道をきっかけに地域住民と行政が連携し、美しい景観づくり、活力のある地域づくり、魅力ある観光空間づくりを提案し、平成 17 年度から本格的にスタートしています。

⑤ 滝里ダム資料館

国道 38 号沿いの芦別市滝里町地区に建設された滝里ダムの周辺整備に伴って、北海道開発局が建設した複合施設です。施設の機能はダム湖のサブ的管理所としての機能、多くの人にダムの役割・重要性・ダムと自然の関わりを理解してもらう資料館としての機能、水没地となる滝里地区のメモリアル施設としての機能、水辺レクリエーション等新たに生み出される観光資源の中核的施設としての機能という 4 つの機能を持っています。

敷地はダム湖の中・上流を広範囲に眺望できる場所であり、ダムにより水没した旧滝里町市街地に対面するという敷地条件です。



滝里ダム資料館より滝里ダムを望む

一泊見学会では 2 日間とも晴天で、現場見学会には最適な気候でした。

ご参加の皆様と説明者の皆様のおかげで予定どおりに、見学会の全工程を終えることができました。ご参加の皆様、並びに関係者の皆様、ご協力有難うございました。

(文責：石村 正一)